

図書館だより1月 上水高校図書館



2021年 新しい年がやってきました。

寒い寒いお正月でしたが、暖かい部屋の中で分厚い全3巻の小説とかを読むには最適ですね。皆さんはどんな冬休みを過ごしたのでしょうか。

1月7日は七草の日でした。七草粥を食べて風邪をひかないように、と言いたいところですが、お粥は消化が良くてすぐにお腹が空いてしまうので、高校生の皆さんは何かしらたんぱく質をプラスしましょう。(唐揚げとかエビチリとか・・・)

《なんなんなんなんなくさなずな 唐土の鳥が日本の土地に
渡らぬ先に すとんとんとんとん》

七草の日に昔唄われたおまじないの様な唄です。(地域によって色々あるかもしれませんが、唐土・中国から渡り鳥が風邪やインフルエンザを運んでくる前に七草粥を食べて丈夫な身体にしようという意味の唄とか) 今年は少しずつでも明るい話題が増えてくることを祈ります。



図書館からのお知らせ

蔵書点検について

期間 2月3日(水)～10日(水)

- ・自習のための図書館の利用は可能です。
但し、PCをカートに乗せて移動しながらの点検作業となりますので、あまり静かな図書館ではなくなります。ご了承ください。
- ・点検作業の移動の動線確保のため、自習利用の机を中央部分だけといたします。
(窓際・後方の机は使用不可です)
- ・貸出・閲覧はできませんが、1月18日(月)から1か月の長期貸出をします。
いつもより多めに借りておいてくださいね。
- ・返却は、返却ポスト又は入り口に置いてある返却ボックスに入れてください。
ご協力をお願いいたします。

今月の司書のおススメ本

「迷える英語好きたちへ」

鳥飼玖美子 斎藤兆史

英語学習では文法と読解が重要であり、その先に聴く・話すがあります。正しく英語と向き合うには文法を含めて言葉の意味を正確にとらえることが必要です。この本ではコロナ禍で英語としては誤った使い方をしている「オーバーシュート」などに英語の正しい表現を示しています。また、楽しみながら英語で文学作品を読むことで文法学習、語彙学習につながることも述べられています。これからの英語との付き合い方を考える一冊です。



十の輪をくぐる 辻堂ゆめ

認知症の母・万津子を自宅介護しながら妻とバレーボール部のエースとして活躍する高校生の娘と暮らす泰介。ある日テレビのオリンピック特集をみて万津子は「私は・・・東洋の魔女」「泰介には秘密」と呟く。それまで一切語られてこなかった母の過去の記憶の断片。泰介は母の秘密を探り始めるが、それは自分が抱えてきた生きづらさにもつながっていることだった。1964年と2020年の2つのオリンピック。物語は2つの時代の視点で交互に進みます。バレーボールでつながる親子3代に渡る、家族の絆の物語です。

「14歳で”おっちゃん”と出会ってからは、15年考えつづけてやっとみつけた『働く意味』」 川口加奈

ホームレスは自己責任だけが原因でなるんじゃない、それぞれになるしかなかった理由がある。《家賃滞納一家がないー住所がないー就職できないーお金がないー》この負の連鎖を断ち切るついでに、放置自転車問題も解決しちゃおう！まずは居場所を、そして仕事を。働きたくても働く場所すらなかったおっちゃん達は、働いてお金を稼ぐこと、お礼のカップ麺を買って渡せることに幸せを感じるのだ。現代日本にあられる問題の数々を実感できる本。15年にわたる著者と、やさしいおっちゃん達の奮闘記はまだまだ継続中！

今月の図書館 廊下ガラス展示…

テーマは『旅をしている気になれる本』

年が明け、新しい1年を迎えましたが、昨年に引き続き外出や旅行など、まだまだ安心して出掛けることができないこの頃ですね。そこで、読めばその土地へ行った気になれる！旅や旅行、海外が舞台の小説やエッセイを集めてみました。

かもめ食堂 群ようこ

小林聡美さん、もたいまさこさん、片桐はいりさん出演の映画にもなったお話で、知っている人も多いかと思います。フィンランドで1人食堂を経営するサチエ。偶然知り合ったミドリとマサコと3人で「かもめ食堂」で働いています。どこかのんびりした土地の空気とそこで暮らす人たちに触れ、日常を切り取ったように特に何事も起こらないお話ですが、読んでみると自分も一緒にその場にいるような、楽しい気分になれる。読み終えてもまた3人に会いたくなりつい何度も読み返してしまう・・・そんな作品です。映画しか知らない人や、ゆったりした気持ちになりたい人はぜひ読んでみてください。



ガラス展示の中の本も貸出できます！